

「あやめさん、この動画に映るの方は完全に君ですよね？」

「あ、えー？き、急に何を  
見せているの、スタッフさん？」

【オホ声】デカケツマゾオ



「や、やだあ、人間違いだ余、  
余、そんなことしてないよ！」

「冗談としても行きます！」

ビク

「うるせえな。」

「言い訳はいいから、右の部屋入って  
さっさと脱げ。」

「・・・はい。」



「いやあ、まさかウチの会社の  
アイドルが裏でこんなやらしいことを  
してるとは・・・。」

犯されたい♡

ん☆

スタッフさん  
デーン！つかぬ♡

ぶるん、

「これはお話のダンスです♡これでどうに  
か余のみたちの体でお計しをください♡」

「ガチ変態やんwまさかちもともとバレたのは期待  
しているの？とんでもないのアイドルだわ。」

「よし、とりあえず一旦その汚いメス穴にハメ  
まくるか。」

【お♡♡】

「あらー反省しろこのマゾメスめ！  
おめがどれだけ変態便女でか知らせて！」

ドクッ

ドクッ♡

ばるんっ

「ふんごおおおッ♡んひいい♡声が収まらない♡  
このままみんなが余の汚いメス声で聞こえてるうう♡  
でも奥でほじるめちやきくうう♡変態変態好きいい♡」

「よし、この後ラブホに行こう。  
今夜の予定をすべてキャンセルせだ、  
気絶までぼこハメしてやる。」

レロ

ぶっちゅー♡

「ふあ〜♡」

レロ

